

第49歩

アートリンク10周年

去る3月17日、瓦町フラッグにおいて「高松市障がい者アートリンク事業10周年記念トーク」が開催され、ゲストスピーカーとして参加してきました。私が障がい者アートというものに初めて触れたのは、2009年に姉妹都市であるアメリカ合衆国フロリダ州のセント・ピーターズバーグ市を訪問した折でした。当時のリック・ベーカー市長が障がいを持った人々が熱心に芸術活動を行なっているのを見てほしいと「クリエイティブ・クレイ」というNPO法人が運営する事業所に連れて行ってもらったのです。障がいのある人が自らの作品を誇らしげに掲げる、その生き生きとした笑顔に強い印象を受けました。芸術活動が障がいのある人の個性を引き出し、生きる力を与えているように感じました。同じ頃、「クリエイティブ・クレイ」と交流がある岡山のNPO法人「ハートアートリンク」の田野代表理事が、アートリンク事業を高松でもやらないか、と提案してくれました。話はとんとん拍子ですすみ、2010年の瀬戸内国際芸術祭に併せて、アートリンクプロジェクトを開催し、高松の障がいのある高校生とフロリダのアーティストとがペアになり作った掛軸や、フロリダの障がいのある人と日本のアーティストがペアになり作った大きなウサギのバルーン作品（写真）などがサンポートに展示をされ、注目を浴びました。2013年の瀬戸内国際芸術祭にもアートリンクプロジェクトを行い、翌年からは、その発展形としてアートリンク事業を開始し、今回10周年を迎えることとなったのです。令和5年度は、16か所の障害福祉サービス事業所等に11人のアーティストが派遣され、障がいのある人たちと美術、音楽、ダンス、陶芸、装飾等の創作活動をともに実施しました。また、姉妹都市60周年記念事業として、日米共作で「獅子」を3体作り、高松とフロリダ双方で創作的なダンスを披露し合いました。田野さんは記念誌に、「各施設でのアートリンクで獲得した「まなざしの力」は、多様性を寛容に包括する力であると感じています」と書かれています。障がいのある人の感性、創造性を育み、自分らしく暮らせる福祉社会の形成に資するものがアートリンク事業だと確信しています。

